

あとがき

1973年に刊行した『東京急行電鉄50年史』から約50年を経て、このたび『東急100年史』を上梓することができました。2016年5月の編纂会議キックオフから約7年、準備期間を入れれば10年を超える社史編纂プロジェクト。難産の末にやっとこの社史を世に送り出せるという安堵した気持ちと、「これで終わってしまうのか」という一抹の寂しさが同居する、不思議な心境です。

編纂にあたっては、史料に基づいて事実を客観的に記述し、当社を中心に、東急グループ各社についてもできる限り触れることを編纂方針に掲げ、幅広い事業分野を持つ東急グループ全体の歴史をご理解いただけるように配慮しました。

ただ「言うは易く行うは難し」で、前回の50年史編纂から約50年に及ぶ「空白期間」はわれわれに重くのしかかり、事実と事実の「つなぎ」部分について想像力を駆使して補いたくなる衝動に何度もかられました。しかし、幾多の議論を踏まえ「裏づけのないことは書けない」という編纂の原点に立ち返り、一定の資料探索とディレクションを経て執筆した1次稿を、さまざまなエビデンス資料と照らしながら断腸の思いでそぎ落とす作業に明け暮れることとなりました。

編纂の中盤からは新型コロナウイルスの感染拡大と緊急事態宣言発出の影響で、チームメンバーの勤務形態にも制約が生じ、まだまだ先のことと思われた「創立100周年」の足音が日増しに大きくなり、それをプレッシャーに感じました。そのようななかでの編集サイドの大きな決断と工夫として、『東急100年史』WEB版に関して、出来上がった章から順次公開したことが挙げられます。この効果として、一つには順次WEB公開することで、業務の進捗が実感できることとなり、少しずつ肩の荷を下ろすことができたこと、そしてもう一つには、『東急100年史』製本版の発行前に、社史本編が賢明かつ熱心な読者の皆さまの目に触れることで先行してさまざまなご意見・ご助言を仰ぐことが可能になり、これに基づいて必要と思われる部分については適宜修正を加えながら、精度を上げた形で今回の製本版を制作できたことを実感しました。ご協力をいただいた皆さまには、改めてこの場を借りて御礼申し上げます。

なお、WEB版にサイト内検索機能を実装したため、製本版では索引の掲載を割愛しました。

WEB版の検索機能を最大限活用することにより、さまざまな調査・研究にお役立ていただければ幸いです。そして、製本版については、保存用としてお手元でご愛蔵いただき、折に触れて紐解かれることを願っています。

また、東急グループ従業員の皆さまには、地域社会との良好かつ密接な関係は、先達が数々の困難を克服しながら知恵や努力のバトンをつないできた基盤の上に成り立っていることを理解し、これからの未来に向け、新たな課題や困難に直面した時の知恵袋として、この社史を活用していただくことを期待しています。

編纂事務局の力不足や紙面スペース上の制約等もあり、記述が深くまで及ばなかった点多々あろうかと思えます。あらかじめお詫びいたします。また、ご覧いただいて誤字・脱字、誤謬等にお気づきの際は、お知らせいただけましたら、『東急100年史』WEB版で反映させていただく所存です。

最後になりましたが、本書は多くの方のご厚意・お力添えとご尽力の賜物です。企画段階より伴走いただいたTOPPAN株式会社年史センターの皆さま、周年史編纂のエキスパート集団として我々を粘り強く支えてくださった株式会社エトレの皆さま、そして何よりも膨大な資料を読み込んで再構成し、読みやすく記述いただいた社史ライターの建野 友保様、経営史の立場から執筆ならびに助言をいただいた青山学院大学の高嶋 修一先生と熊本学園大学の嶋 理人先生、そしてヒアリング、写真・資料提供、原稿確認等に快く応じていただいた社内外の関係者の皆さまに改めて感謝するとともに、心より御礼申し上げて、結びの言葉といたします。

東急100年史編纂事務局
(社長室広報グループ内)